

PDF Presentation using Tex

TeX から作った PDF でプレゼンを行う

Makoto IIMA (飯間 信) @ Hokkaido Univ. (北海道大学)

1 章と節、ページを変える

01234

56789

章立ては、`\Section{ }` を用いる。

節は、`\Subsection{ }` を用いる。

1.1 第一節

次のスライドへ移るときは、`\Newslide` を用いる。

これは `presen.sty` で定義されたマクロ

2 便利なリンク

01234

56789

- この `presen.sty` の例では、右上の数字が、該当章へのリンク

2 便利なリンク

01234

56789

- この `presen.sty` の例では、右上の数字が、該当章へのリンク
 - `presen.sty` 内に定義個所があるので変更可能
- 下左右の矢印は次ページ、前ページへのリンク

- この `presen.sty` の例では、右上の数字が、該当章へのリンク
 - `presen.sty` 内に定義個所があるので変更可能
- 下左右の矢印は次ページ、前ページへのリンク
 - ページ送りを `\Newslide` で行わないとこのリンクは無効

数式は、

$$\sum_{k=1}^n k = \frac{1}{2}n(n+1)$$

のように緑色で示される。

この他に強調コマンドがいくつか用意されている。

コマンド名	例
<code>\underl</code>	Underline
<code>\concept</code>	Concept
<code>\inactive</code>	Inactive
<code>\emph</code>	Emphasis
<code>\emph{\emph{...}}</code>	Emphasis2
<code>\highlightboxed</code>	Highlightbox

これは texpower の機能

これ以外にも色が使える。

赤青黄等である。他にもあり、大体の色はそろっている。

詳しくは `colordvi` 等の機能を参照のこと。

5 プレゼン表現 1

01234

56789

有用なプレゼンの表現: キーを押すごとに画面に文字が現れる効果

5 プレゼン表現 1

01234

56789

有用なプレゼンの表現: キーを押すごとに画面に文字が現れる効果

これを実現するには、`\pause` を用いる。

5 プレゼン表現 1

01234

56789

有用なプレゼンの表現: キーを押すごとに画面に文字が現れる効果

これを実現するには、`\pause` を用いる。

こんな風に。

これは `texpower` の機能

6 プレゼン表現 2

01234

56789

もう一つの有用な表現: キーを押すごとに画面のある部分に文字が入る効果。

例えば、

もう一つの有用な表現: キーを押すごとに画面のある部分に文字が入る効果。

例えば、

生き物の種類 例

哺乳類

は虫類

鳥類

昆虫類

もう一つの有用な表現: キーを押すごとに画面のある部分に文字が入る効果。

例えば、

生き物の種類	例
哺乳類	ヒト
は虫類	
鳥類	
昆虫類	

もう一つの有用な表現: キーを押すごとに画面のある部分に文字が入る効果。

例えば、

生き物の種類	例
哺乳類	ヒト
は虫類	ヘビ
鳥類	
昆虫類	

もう一つの有用な表現: キーを押すごとに画面のある部分に文字が入る効果。

例えば、

生き物の種類	例
哺乳類	ヒト
は虫類	ヘビ
鳥類	雀
昆虫類	

もう一つの有用な表現: キーを押すごとに画面のある部分に文字が入る効果。

例えば、

生き物の種類	例
哺乳類	ヒト
は虫類	ヘビ
鳥類	雀
昆虫類	蝶

- `\Section` 等の章には、自動的に `sec+(章の数字)` というラベルが付く。
- `\hyperlink{sec1}{ここを押すと第一章に行く}` と打てば使える。

- `\Section` 等の章には、自動的に `sec+(章の数字)` というラベルが付く。
- `\hyperlink{sec1}{ここを押すと第一章に行く}` と打てば使える。

試してみよう。

[ここを押すと第一章に行く](#)

8 リンク 2-1: ターゲットを与える

01234

56789

`\hypertarget{ラベルの例}{ここに来る}` という行があると、

8 リンク 2-1: ターゲットを与える

01234

56789

`\hypertarget{ラベルの例}{ここに来る}` という行があると、

ここに来る

という風に表示される。リンクの張り方は使い方は次のページ

これは hyperref の機能

`\hyperlink{ラベルの例}{ここに来る}` と書くことで、

ここに来る

と表示され、このラベルの場所に飛べるのである。

なお、ver 2.10 から、こういう参照の時は `\Ref` を使うことをおすすめする。章のタイトルに `\` で始まる記号があるとエラーがでることがあるので。

なお、パッケージ `hyperref` を入れているので、 \TeX での参照が自動的にリンクとなる。こちらの方が楽である。赤い数字を押すと該当する場所に飛ぶ。

なお、パッケージ `hyperref` を入れているので、 \TeX での参照が自動的にリンクとなる。こちらの方が楽である。赤い数字を押すと該当する場所に飛ぶ。

例 1: 第 7 章からリンクの説明が始まった。

なお、パッケージ `hyperref` を入れているので、 \TeX での参照が自動的にリンクとなる。こちらの方が楽である。赤い数字を押すと該当する場所に飛ぶ。

例 1: 第 **7** 章からリンクの説明が始まった。

例 2: 数値計算: 非圧縮 Navier-Stokes 方程式 (**1**)

前ページから飛んでこられましたか？

非圧縮 Navier-Stokes 方程式は、

$$\frac{du}{dt} + (u \cdot \nabla)u = -\frac{1}{\rho} \nabla p + \nu \Delta u, \quad (1)$$

$$\nabla \cdot u = 0. \quad (2)$$

ここを押して前のページに戻ってください。

TeX のグラフィックスパッケージで可能 (graphicx)

EPS ファイルを作成し、読み込む。

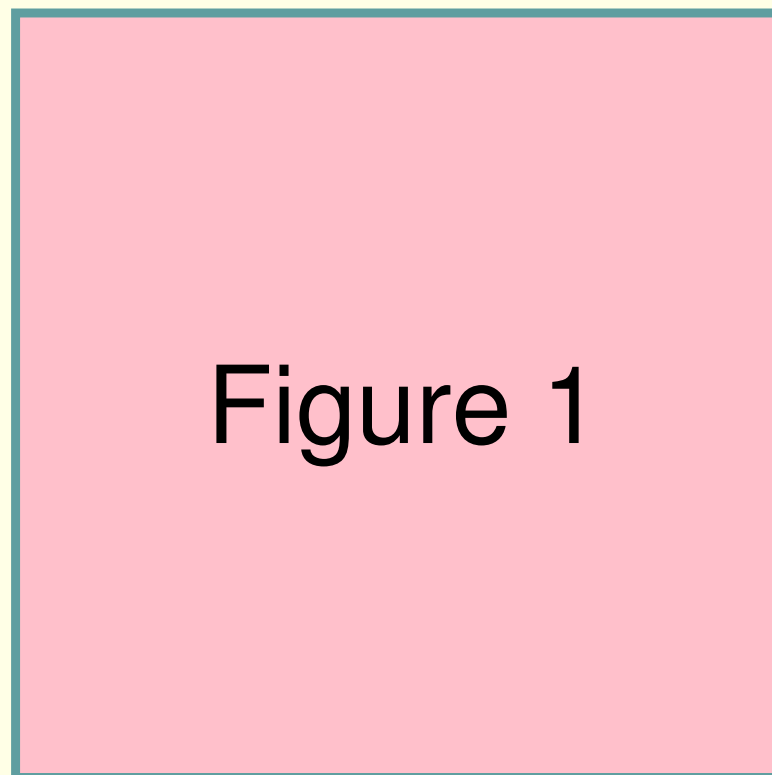


Figure 1

これは graphicx の機能

動画を使いたいときは、

1. まず pdf ファイルを作る
2. Adobe Acrobat 5.0 に読み込ませる
3. 動画を呼び出したいページを表示し、リンクツールを選択
4. 適当な領域（この領域内にマウスを動かしてクリックすると動画が呼び出される）を指定し、「プロパティ」で「ファイルを開く」を選択する
5. 動画ファイルを選ぶ

という手順を踏む。□

これは Acrobat5.0 の機能

□ Acrobat5.0 にはムービーツールもついていて、これを使うと .mov ファイルと .avi ファイルについては画面内での埋め込み再生が出来る事になっている。windows 上で筆者が試みた限りでは、出来る動画と出来ない動画があったり、動作が不安定になるなど不具合があった。Mac OS X 上では問題なく埋め込めるようである。

1. 画面左右下の矢印のフォントを $\triangleleft, \triangleright$ に変更
 - 以前の矢印フォントでは、細かい不都合があったため
2. `\Section` 内等でバックスラッシュ付きの数式 (ex. `\Section{\Phi}`) を使うとエラーを吐く仕様の変更
 - 第 14 章のセクションタイトルのように修正されている
 - (Thanks: 高橋@電通大 さん、後藤@核融合研 さん)